

養蚕の歴史と関連事項

日本の養蚕業と山梨の経過

江戸末期から昭和初期にかけて盛んで、国の殖産興業策にそって近代化をすすめ、1900年頃には世界一の生糸の輸出国となった。その後1935年前後にピークを迎え、2020年には全国の養蚕農家数は228戸にまで減少した。なお、歴代皇后は皇居内紅葉山御養蚕所で、養蚕始儀、養蚕納儀等を自ら行なっている。

山梨の養蚕は、明治期には製糸業とともに、山梨の経済発展の原動力となった。明治初期、生糸を人力で横浜港まで運び貿易した。その中から、その資本で東京に進出し、電力、鉄道等基幹産業を興し「甲州財閥」と呼ばれた人々が現れた。根津嘉一郎氏もその一人。当時の山梨県内農家の40%が養蚕を行っていた。2020年現在県内養蚕農家は9戸で、年間生産量約2.0t（全国9位）。

蚕影神社 <茨城県つくば市>

茨城県つくば市にある蚕影（こかげ）神社は、全国の養蚕守護・蚕影信仰の総本山。創建は第13代成務天皇の御代（西暦140年代）とされ、三柱の祭神のうち、特に稚産霊神（わかむすびのかみ）は、日本書記に載る農蚕神。この社は、日本の養蚕の起源と言える。カイコにまつわる「天の虫伝説」も継承しているとされる。

大嶽山那賀都神社 <山梨市三富上釜口>

かつての山岳信仰の対象。簡単に参拝に行けないため、代表が代参してお札を地区に持ち帰り、各地区で組織されている講社（20人ほどのグループ）に配り、当地の豊作を願った。当然、養蚕地帯では繭の豊作を祈った。大嶽山那賀都神社境内の一面に、石を投げて繭の収穫を占う「占い岩」があった。

※講社；信仰する20人ほどの集団。代参は春と秋の2回

小正月の団子

かつての養蚕地帯では、小正月に、繭玉を作って祝う地域が多く存在する。これは、その年の繭の豊作を祈って作られるものであり、道祖神場と蚕影山が同じ敷地に祀られているのは、そのような背景があるとされる。



昭和期の養蚕農家



給桑作業中の雅子皇后 皇居内



蚕影神社 <茨城県つくば市>



大嶽山那賀都神社<山梨市三富上釜口>



どんど焼きに集う子ども

整備経過とその意義・概要

経過

2022(R4)年

- 3月23日(土) 区総会において建設小委員会設置決定
- 4月16日(土) 第1回小委員会 組織立ち上げ、蚕影山社の評価についての調査分担協議
- 4月29日(金) 第2回小委員会 組織決定、調査結果共有、お社建て替えの方向性協議
- 5月06日(金) 入札予定業者説明会(代表者立ち会い)
- 6月04日(土) 第3回小委員会 施工業者を仙洞田板金工業に内定、会計、整備日程協議
- 6月25日(土) 第4回小委員会 小委員会名称変更、会計計画、区民説明会内容等確認
- 8月06日(土) 第5回建設委員会 区民説明会確認、各組家庭訪問等詳細協議
- 8月20日(土) 区民説明会
- 8月30日(火) 仙洞田板金工業との建築に関わる契約
- 9月03日(土) 第6回建設委員会 寄付のお願い(個別訪問)
- 10月08日(土) 第7回建設委員会 寄付金進捗状況、道祖神石組み補修見積り依頼協議
- 11月23日(水) 第8回建設委員会 石組み補修業者を小松石材に決定、完成式典協議
- 11月26日(土) 道祖神石組み解体法要
- 12月10日(土) 第9回建設委員会 落慶法要、開眼法要について協議
- 12月18日(日) 落慶法要、開眼法要(役員・関係者)

2023(R5)年

- 1月14日(土) どんど焼き 完成式典(全区民)

道祖神場並びに蚕影山お社整備の意義

- ①蚕影山のお社は、江戸末期から明治にかけて地域の中心産業であった養蚕の豊作を祈った場所として祀られ、現在の果樹の豊作を祈る役割に代替されてきた。また、お社を構えている特徴は他地区にはなく、それを後世に継承するべきと考えるため。
- ②道祖神とお社は中心施設として存在し、小正月のどんど焼きでは、聖徳寺住職によって供養されている。古くから区民、特に子どもたちに親しまれてきたお社を後世に残すべきと考えるため。なお道祖神場には三神(道祖神、庚申塔、蚕影山)が祀られている
- ③お社に収められている太鼓は今から450年ほど前の安土桃山時代の天正年間の制作(2000(H12)年張替時に確認)で、この太鼓とお社は不可分であることから、太鼓の保管場所としてのお社が必要と考えられるため。
- ④六地藏様を祀る場所の確保の意味から、道祖神場と蚕影山とを一体的に整備する必要があったため。
- ⑤この近在にかつて寺院の墓所があり、僧侶三体の石塔が祀られていた。それを聖徳寺様のご厚意により聖徳寺境内に祀ることとしたため、これまで設置していた場所の整備が必要になったため。
- ⑥地域信仰は、豊かな自然から恩恵を受けたことへの感謝を表す意であり、同時に五穀豊穡、家内安全を祈った。そのような精神文化の拠り所になっているお社を残すことが、先人への感謝であり、敬意を払う意であると考えられるため。
- ⑦県内外から区を訪れる来訪者にとっての観光資源に成り得る可能性があり、今後案内板等の整備を合わせて検討し、本区を発信する要素にしていけると考えるため。

お社の整備概要

- ①敷地 現在の場所で、将来の道路整備(セットバック等)を考慮し、規模を縮小して新築する。
床面積 1.5間×1.5間・・・2.25坪(7.45㎡) 四畳半
- ②構造 木造ガルバリウム鋼板 菱葺 入母屋造り。入口戸等既存物を再利用する。

道祖神石組み整備概要

- ①敷地 上記同様に将来の道路整備を考慮し、現在の場所とする。
- ②構造 基礎の石積みを補修・補強し、石碑等を補修・再配置する。



写真出典・参考文献（一部改編）

1. 山梨県総合教育センター Web 教材 山梨の養蚕のうつりかわり
<http://www.ypec.ed.jp/webkyou/yousan/uturikawari.htm>
2. (一財)大日本蚕糸会 シルクレポート No.73
<https://silk.or.jp/wp-content/uploads/silk73.pdf#view=Fit>
3. 大嶽山那賀都神社 HP <https://nagato-jinja.jp/about/>
4. Wikipedia 蚕影神社 <https://ja.wikipedia.org/wiki/蚕影神社>
5. 毎日新聞 Web 版 <https://mainichi.jp/articles/20210525/k00/00m/040/282000c>
6. 地域資料デジタルアーカイブス 山梨県峡東地域の道祖神祭（どんど焼き）
http://archive.digi-ken.org/kyoto_dosojin.html